

口腔領域に使用する OTC 医薬品のエビデンス

一般社団法人日本医薬品情報学会

〈文献検索〉

- ・データベース: PubMed、医中誌 Web
- ・Keywords : triamcinolone AND (stomatitis OR pharyngitis OR tonsillitis)  
tranexamic acid AND (pharyngitis OR tonsillitis)  
liquorice AND (stomatitis OR pharyngitis OR tonsillitis)  
glycyrrhiza AND stomatitis  
nicotinic acid amide AND (stomatitis OR pharyngitis OR tonsillitis)  
sodium azulene sulfonate AND stomatitis  
glycyrrhetic acid AND stomatitis  
aspirin AND toothache  
loxoprofen AND toothache  
acetaminophen AND toothache  
creosote AND toothache

〈クリニカル・クエスチョン(CQ)〉

CQ1. 歯痛に対する鎮痛効果に明確なエビデンスはあるか？

通常診療において、歯痛に対して必要と判断した薬剤(ロキソプロフェン、メフェナム酸、アセトアミノフェン)の鎮痛効果を測定したが、薬剤間に有意な差は認められなかった。しかし、服用前後の比較では 3 剤とも有意な鎮痛効果が得られた<sup>1)</sup>。

CQ2. 鎮痛剤により即効性は異なるか？

下顎埋伏智歯抜歯術後の鎮痛効果について、初回疼痛発現時間を無作為試験で比較した。アセトアミノフェン 1000mg 群は 80 分後、同 500mg 群は 70 分後、ロキソプロフェンナトリウム 60mg 群は 50 分後、プラセボ群が 30 分後であった<sup>2)</sup>。

CQ3. トリアムシノロンアセトニドの口内炎に対する作用は？

ネットワーク・メタアナリシスによると、トリアムシノロンアセトニドはプラセボと比較して、有意な潰瘍径の減少が認められ、症状の軽減も確認されている。また、副作用の発現はプラセボとの間に差が認められなかった<sup>3)</sup>。

CQ4. 甘草の口内炎に対する作用は？

ネットワーク・メタアナリシスによると、甘草はプラセボと比較して、有意な潰瘍径の減少が認められた<sup>3)</sup>。

文献

- 1) 和達礼子, 須田英明, 大谷啓一 ら. 歯痛に対する非ステロイド性消炎鎮痛薬(NSAIDs)の鎮痛効果 標準

的評価方法の検討. 歯科薬物療法 2013; 32: 16-27.

- 2) 中野みゆき, 山口晃, 竹本真一郎 ら. 下顎埋伏智歯抜歯術後の疼痛に対するアセトアミノフェン(カロナール)の臨床効果. 日本口腔診断学会雑誌 2004; 17: 205-210.
- 3) Hao Liu, Lei Tan, Gege Fu, et al. Efficacy of Topical Intervention for Recurrent Aphthous Stomatitis: A Network Meta-Analysis. Medicina (Kaunas) 2022; 58: 771.

(2024年2月14日)